



平成24年3月2日

各 位

東京都千代田区麹町三丁目2番4号  
会社名 株式会社スリー・ディー・マトリックス  
代表者名 代表取締役社長 高村 健太郎  
(コード番号: 7777)  
問合せ先 取締役 岡田 淳  
電話番号 03 (3511)3440

**慶應義塾大学医学部における当社技術を新規応用した  
医師主導型臨床研究開始のお知らせ**

当社は、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）から独占実施権を取得している自己組織化ペプチド技術に関し、慶應義塾大学医学部腫瘍センターにおいて内視鏡分野での院内臨床研究が計画されておりましたが、この度、平成24年3月1日に最初の患者登録が行われ、臨床研究が開始されましたのでお知らせいたします。

本臨床研究は、慶應義塾大学医学部腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門（矢作 直久 教授、研究責任医師 浦岡 俊夫 講師）において行われ、内視鏡的手術後の偶発症の一つである後出血の予防を目的として、200症例を対象に安全性及び有効性を評価する臨床研究を実施するものです。

内視鏡的粘膜切除術及び内視鏡的粘膜下層剥離術は、消化管の腺腫や早期癌を内視鏡的に切除する手技であり、侵襲性の低い治療法として患者さんの Quality of Life (QOL) の維持に寄与しております。本治療法は食道、胃、大腸等の消化管において国内で年間約80万件以上の手術が行われる一方、手術後、時間が経ってから切除部位（潰瘍部位）より出血することがあることから、それによる大量出血の際の出血性ショック、輸血や緊急手術の必要性、入院期間の延長などが課題となっており、現在では、後出血を予防する簡便かつ有効な医療技術等はまだ開発されておられません。

当社が開発を進める自己組織化ペプチドは、過去の動物実験の実績より安全で効果的な止血効果を有することを確認しております。本臨床研究は、慶應義塾大学医学部腫瘍センターにて、内視鏡的粘膜切除術及び内視鏡的粘膜下層剥離術後の切除部位（潰瘍部位）の後出血を予防する効果を検証することを目的として実施されます。当社は、この臨床研究における自己組織化ペプチドの有効性と安全性の評価が新規医療機器の開発につながるものと位置づけております。

当社は今後も研究開発を推進し、ペプチドの新しい用途可能性の探索、新規事業化に向け取り組んでまいります。なお、現段階においては、本件による本年度以降の業績予想への影響はありません。

以 上